

どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No. 14



どうぶつと私...(9)

Animals and I

動物と私

Animals and I

大庭 照代

千葉県立中央博物館



人間は変わった動物だと思います。一方で他の動物たちにこれほど興味と愛情を感じながら、他方でとんでもないほど無関心で冷酷残虐でありえるからです。

冷酷残虐といったのは、私たちが他の動物たちを食べることを意味しているわけではありません。人間が生きていく以上、他の動物を栄養源にすることは、基本的に避けられないことだからです。少しオーバーですが、牛のように5つもある巨大な胃を詰め込んだ大きなおなかを突き出して、街を歩きながらお茶を飲みながらも、おなかと同じくらい大きなリュックサックから草を取り出しては、休みもなくもぐもぐやり続けるところを想像してみてください。現在の私たちがスマートなのは、動物という高蛋白な素材から身体を組み立てる物質や身体を動かすのに必要なエネルギーを得る方法をとっているからです。

また、恐ろしい敵として殺したりすることさえも、冷酷残虐とはいえません。たとえば、襲われて自分の命が危ないというようなときです。もちろん、古くからむやみに動物を殺りくしたり傷つけたりすることは、戒められてきたところです。

しかし、今日もまた、たくさん動物たちが、世界の各地で、私たちの身近で、実はないがしろにされています。動物園などで私たちが「可愛いな」とか「おもしろいね」といいながら見ている動物、なかにはちょっと好きになれそうもないコウモリなどの生きもの、また私たちがその名前すら知らないような小さな動物たちがなのです。もともとすんでいる地域で、密猟されたり、森林の伐採や湿地の埋め立てによってすみ場所が奪われたり、人間の作りだす製品や技術の安全性を測るために苦痛をうけたりしているのです。

動物園では、いろいろな動物を紹介しています。これはすごいことだと思います。さまざまな動物の前で、座りこんだり抱き抱えたりしながら子供たちと話しこんでいる親や先生たち。とてもほほえましくて楽しそうです。傍で聞いていると、やりとりは必ずしも動物のことについて正確ではありませんが、それなりにすぐ目の前でブンブンにおいませする動物と自分たちとの間に、知り合いになったという関係を造り上げているようなときがあります。

わたしは、動物園はこれだなと思います。ふだんはなかなか見ることができないところの動物たちと知り合いになるチャンス！知り合いが苦境に陥ったり、迫害にあったりしたら、私たちは何とか援助しようという気持ちにならないでしょうか。こんな気持ちになる人間はとても不思議な動物だと思います。

目 次

表紙・リスザル 1

どうぶつと私(9) 2
「動物と私」

グラビア 3
アメリカビーバー

特集・動物科学館 4

第7回サマースクール 5

飼育レポート 6
「キリンの出産」

動物公園の動物⑨ 7
動物公園の施設⑨

動物公園日誌から 8

飼育よもやま話 10

健康管理センターから 11

表紙の動物説明

リスザル

中央アメリカから南アメリカ南部にかけての広い範囲に、40～50頭の群れをなして生息する小型のおとなしいサルで、ペットや実験動物としてよく飼育されます。

果実や花・芽などを主に食べますが、昆虫も大好きです。

撮影・宮川千尋

動物飼育数

(平成3年7月31日現在)

哺乳類	77種	506点
鳥 類	98種	456点
爬虫類	5種	48点
両生類	1種	2点
魚 類	1種	2点
総 計	182種	1,014点

グラビア

アメリカビーバー

North American Beaver

げっ歯目 ビーバー科



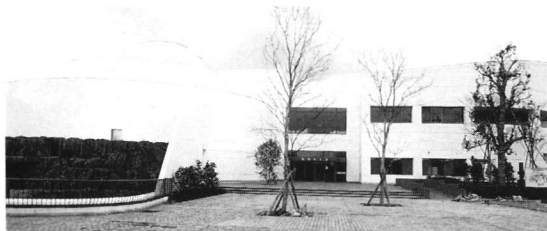
撮影・宮川 千尋

ビーバーは北アメリカとヨーロッパの森林帯に分布しており、その鋭い門歯で木をかじり倒し土や木の枝などで大きな巣を作り、家族で暮らしています。巣は外敵から守るため出入り口は常に水面下に在るように保たなければなりません。そのためダムを築き水位を一定に保っています。しかし、森を荒らし水路をせき止めるため嫌われ、また、その毛皮が良いため取られて各地で少なくなっています。

(宗近 功 Isao Munechika)

動物科学館 Zoological Hall

当動物公園の目標の一つである教育の拠点として計画された施設で、延べ床面積約5,000㎡の大きな施設です。内部は動物展示セクションと教育セクションから成り、動物展示セクションは『熱帯雨林の世界』というテーマにもとづいて構成されており、動物の展示と解説がセットとなって配置されています。これは、各動物の前で解説をするには限界があり、より高度な情報を提供するために別室で行っているため、因に各動物の前にはネームプレートだけしかないのはそのためなのです。



動物科学館正面より

また、動物を飼育すると悩まされるのが臭気です。なかには臭気も展示物だという人もいますが、気持ち良く見てもらうにはやはりクリーンな方が良いでしょう。観客通路に臭気がでないように空調設備は動物側と観客側の二系統で行っています。また、臭気の観客通路側への流出を防ぎ、動物達が見易いようにすべてガラス張りとなっています。動物展示セクションを一巡してみましょう。まず1階のプロローグではテーマにもとづいて熱帯特有のスコールを音響と映像で再現し、千葉から一挙に熱帯雨林の世界にお連れします。

次は、バードホールで、ここには大きなガジュマルの林に熱帯の鳥達が飛び回っています。次の第1展示室では、世界の気象と樹木についてミニジオラマと本物の樹木を使って気象との関係を解説しております。次



バードホール

は熱帯雨林の夜の世界をご紹介します。ここはお客様がご覧になれるように動物達の生活を昼夜逆転させて展示しておりますので昼間でも夜の行動が観察出来ます。次の第2展示室は夜のコウモリの暗闇での飛翔の秘密や、なぜ夜でも見えるのかなどの夜の世界の動物達を詳細に解説しております。次は類人猿でゴリラ、オランウータン、チンパンジーなどの屋内展示場があります。普通は屋外の展示場でご覧になれるのですが、雨や寒い日などはこちらでご覧になれる。第3展示場は霊長類の進化の系統樹と私達と類人猿との脳の比較

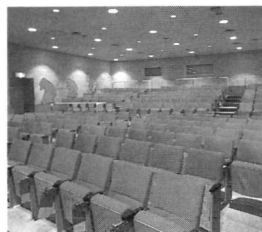
パネル、等身大の3種の類人猿などが展示してあります。2階に上り第4展示室では鳥の飛翔について解説してあります。鳥の特徴である羽の構造、長時間飛翔のシステム、実際に風洞を使い、鳥や飛行機が空に浮くシステムをご覧にしております。バードホールの2階を通過して第5展示室に入ると大きな世界地図と部屋一杯の骨のトンネルがあります。第4展示室に続きここでも鳥をテーマとして渡り、方向感覚、視界など鳥の興味深い多くの点にスポットを当てております。アマゾン我代表する特殊化した霊長類マーモセットやタマリンの仲間を展示しております。彼等は昼行性で



風洞実験装置

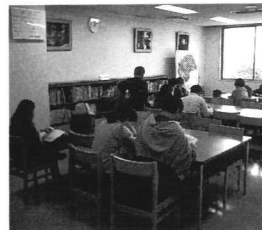
あるため、トップライトで太陽光を各室取り入れております。世界で最も小さいピグミーマーモセットなどが展示されております。小型のサルの展示室を抜けると第6展示室に入ります。ここではサルの水平分布、垂直分布、新世界ザルと旧世界ザルの比較などをジオラマ、パネルなどで解説しております。次の広い部屋は特別展示室で、特定のテーマで長期の展示を行います。お疲れになったら喫茶室でお休み下さい。

教育セクションは動物に関する情報の提供の場で、1階のレクチャールームでは視聴覚器材による情報の提供を行っており、講演会、映画会などを行っております。2階には50,000冊収容可能な書庫と閲覧室があります。ここでは専属の職員が配置されており、文書により情報提供をおこなっております。



レクチャールーム

また、動物科学館の地下には広い機械室があり館内の空調、電気はもとより、園内の約半分の施設の電気関係も賄っています。省エネルギーのため屋上に太陽熱利用施設（ソーラーシステム）も導入し、温室の散水、冷暖房にも利用しております。



図書室

現在の動物園では、ただ動物を展示しているだけでなく、いろいろな動物の情報の提供も要求されるようになり、各地の動物園で情報センターの役をする施設が計画される火付け役になったのがこの動物科学館でした。まず、神戸市が参考にして動物資料館を建設し、その後、広島市、熊本市などの動物園でも同様な目的で建設され、今日でも幾つかの動物園で計画がすすめられていると聞きます。新しい施設に負けないようにソフトの充実をはかりたいと考えております。

第7回サマースクール

The Seventh Summer School

サマースクールも回を重ねて7回目となりました。開催日の7月24日～26日は好天に恵まれ、みんな汗を拭き拭きががんばってくれました。その3日間の中から7枚のスナップを選んで今年のサマースクールを振り返ってみたいと思います。



エサ（ペレット）を個別の器に入れていきます。



ポニーの蹄のそうじは毎日します。



緑陰広場に集まってみんなで昼食です。



ウンチの観察をしているところです。



病院で薬の袋詰めをしています。



今日やったことをテキストに書き込みます。

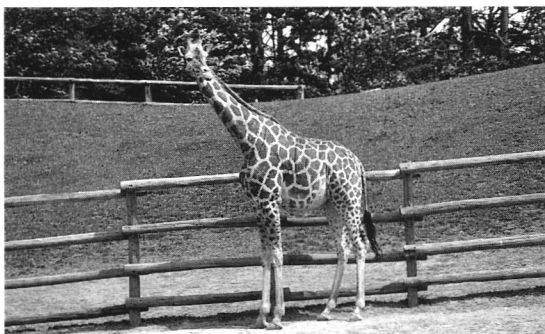


動物の寝室の掃除は大事な仕事です。

キリンの出産

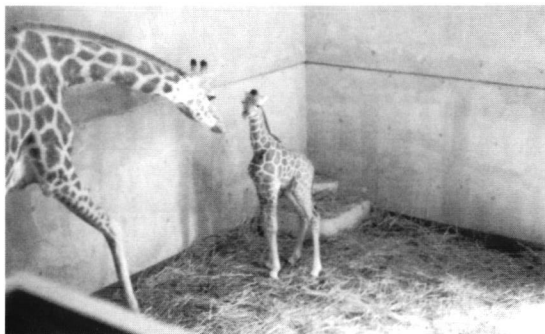
The Birth of a Giraffe

5月19日、日曜日、昼休みのことです。昼食をすませに事務所に帰ってきたちょうどその時、Bさんのいつもの落ち着いた声がありました。「キリンの出産が始まっているそうです。お客さんから連絡がありました。」キリンの放飼場にとんで行くと、母親の体内から片方の前足のひづめが見えています。「キリンの出産は馬と違って夜に限らず昼間にもおこなわれる。」とは聞いて



妊 娠 中

いたものの、よりによって日曜日の真昼間、お客さんの目の前で始まるとは…。興奮気味の母親を獣舎に収容してシャッターを閉めて、子供が出てくるのを待ちました。こういう時は、あまりのぞいたりしないで落ち着かせてやるのが一番です。2時間経ち、ようやく両前足が出ました。5時間経ちましたが頭が出た後、肩がつかえてなかなか出てきません。母親に陣痛が来ると子供の肩がすこし出のですが、力を抜くと体内に戻ってしまい、見ている方も思わず手に力が入ってしまいます。子供は前足と首をだらりと垂れて、時々舌をペロリと動かすだけです。「このままでは子供が弱



生まれてまもないキリン

ってしまう。」という獣医の判断で、子供を引っ張り出す事になりました。うろうろ歩き廻る母親の後ろにまわり込んで、意を決して子供の足を引っばろうとした時、パァーンと大きな音がして後ろに飛ばされてしまいました。後足で強烈なケリを喰ったのです。その痛

かったこと。母親は、ますます興奮してフーン、フーンとものすごい鼻息をたてていました。「これ以上引っぱるのは危険だから、陣痛促進剤を注射してしばらく様子を見よう。」ということになり、外に出て一息いていた時、中から「出ましたよう！」の声。出産が始まってから約6時間後の午後6時10分、無事子供が生まれました。「子供を引っ張り出そうとして親を興奮させた事が、いい陣痛促進剤になったみたいですね。」と言ってNさんは笑っていました。

生まれたばかりの子供は一部胎膜におおわれていて羊水でぐっしょり濡れています。死んでいるように見えてましたが、腹がペコペコと動きだして呼吸している事がわかります。子供はすぐに足をばたつかせ、首を上げて必死に立とうとします。母親は子供の体をなめて起立を助けようとしているかのようでした。約1時間後にはよろけながらも起立して母親の下腹部に首を伸ばしておっぱいを捜し始めました。母親も首で子供をおっぱいの方に導いていましたので、哺乳はうま



初めて親子で放飼場へ

くいきそうです。ここまでくれば一安心。あとは親子でそっとしておいてやろうという事になり、獣舎を後にしました。こうして長い一日は終わりました。

翌朝キリンの子供は、昨日生まれたとは思えないようなしっかりとした姿でこちらを向いて立っていました。体高は約180cm。父親似のはっきりとしたアミメ模様の雄です。頭の角はまだ親のように2本生えておらず、黒い毛におおわれたコブのようでした。時々うまそうにおっぱいを飲んで、座り込んでうつらうつらしているようでした。また母親は子供の面倒をよく見て、おっぱいも床にほとばしるほどよく出ましたので安心できました。

その後子供はすくすく育ち、今では草やペレット類もよく食べるようになり、お父さんお母さんキリン達と一緒に元気に放飼場を駆け廻っています。

(横山 浩 Hiroshi Yokoyama)

動物公園の動物⑨

Animals in the Chiba Zoological Park

～タンチョウ～

Red-Crowned Crane

皆さんはツルという真っ白な体に頭の先の赤、首の黒色と黒い尾羽のように見える風切羽との赤・黒・白の3色がうまく調和した、このタンチョウをおもいうかべることと思います。これは昔から和歌に詠まれ、童話に登場し、絵にも描かれるなど私たち日本人にとって非常に馴染みの深い鳥だからではないでしょうか。

タンチョウはアジア大陸東北部のモンゴル北東部、中国東北部、ソ連のウスリー、アムール地方、北海道東部に繁殖がみられます。大陸のものは冬期になると朝鮮半島や中国に渡りますが、日本のものは留鳥性で湿地や原野、湖沼周辺などに1年を通して生息しています。

タンチョウの鳴き声は「ツルの一声」と呼ばれるようにカン高く、遠くまで聞こえます。それは気管が他の鳥に比べて長く、その気管は胸骨の中にまるめ込まれて管楽器の共鳴管と同じような働きをしているからなのです。鳴き方にも特徴があり、つがい鳴き交わすときにはまず雄が「コオー」と鳴くと、次いで雌が「コッ、コッ」と返事をする具合です。これによって



体の大きさと判別できるように、鳴き方によっても雄雌を見分けることができます。

またこの鳥はなわばり意識が強く、むやみに近づく「ハッ」とか「カアッ」と鳴いて外敵を追い払おうとします。動物公園で見られるタンチョウもそうで、抜け落ちた羽を拾いにいこうとするだけで威嚇音を発しながら歩み寄ってきます。そして翼を広げ、首を後ろにそらしながら「それ以上一歩たりとも近づくんじやない。」と言わんばかりの動作を見せます。

このように気品高く、美しい、また長寿の代表とされている、このタンチョウをご覧になって下さい。

(樽川 修 Osamu Tarukawa)

動物公園の施設⑨

Facilities of the Chiba Zoological Park

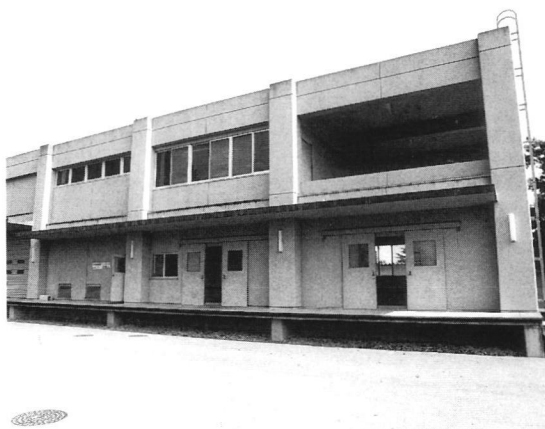
～飼料センター～

Zoo Food Center

「ちわっ、アジだけどイキのいいところ10キロほどいれといたよ。」「どうもすみません。ご苦労様です。冷蔵庫の方へお願いしまーす。」「暑いですねえ。卵と牛乳、冷蔵庫に入れておきますね。」「はい、どうも。次の注文はこれをお願いします。」「はい、毎度どうもありがとうございます。」

まるで台所を預かる主婦と御用聞きのお兄さんとの会話ですが…。でもれっきとした動物公園でのひとこまなのです。ここ飼料センターは冷凍の魚や肉が2～3トンは保管できる超大型冷蔵庫、野菜や果物を400～500キロ、牛乳やヨーグルトなども保管できるこれまた超大型の冷蔵庫を備え、ワラや乾草を30トン近くも保管できる倉庫を持ち、広々とした流し場と調理台、リフト付きの個型飼料置場と、動物たちの口にするものすべてまかなう文字どおり「中枢」と言えますよう。

飼料センターで毎日各ゾーンごとに仕分けされた野菜や果物、パンなどがそれぞれの調理場に配達され、飼育係は各々の動物用に野菜を刻み、果物を切り分け、



混ぜあわせ、時には味見も(?)して、美しく健康的な動物の展示に心をくだくのです。

ですから、飼料センターの担当としては各々の飼育係からの要求に応じていろいろな餌を入れ、質も量も希望どおり…といきたいところなのですが、毎日の生鮮野菜の値動きに神経をとがらせ、予算と請求書の山とを見比べて時には「鋭意決断!」をしなければならない。そんな苦労もあると、これはまったく育ち盛りの子供を何人もかかえる一家の主婦と同じ心境でしょう、きっと。(並木 美砂子 Misako Namiki)

動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'91年 2 月 1 日～'91年 7 月 31 日

- 2 月 2 日 ムネアカタマリン、繁殖する (3 頭)
- 2 月 4 日 ケープペンギン、産卵する
- 2 月 5 日 トナカイの雄、右角が落ちる
- 2 月 6 日 セーブルアンテロープの雄、東武動物公園へ搬出する
- 2 月 7 日 オオタカの雄、死亡する
- 〃 ジェンツーペンギン 8 羽、展示する
- 2 月 11 日 コンタクトコーナーの利用者が多く 1,000 人を越す
- 2 月 14 日 フンボルトペンギン、産卵する
- 2 月 15 日 ハワイガン 2 羽、大島公園へ搬出する
- 2 月 17 日 トナカイの雄、左角も落ちる (12 日目)
- 〃 科学館で毛紡ぎ教室を開催する
- 2 月 20 日 シロガオマーモセット、繁殖する (2 頭)
- 2 月 23 日 イワトビペンギン 2 羽、マカロニペンギン 1 羽、新着する
- 〃 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催 (オセロット)
- 2 月 27 日 ジェンツーペンギン 1 羽、死亡する

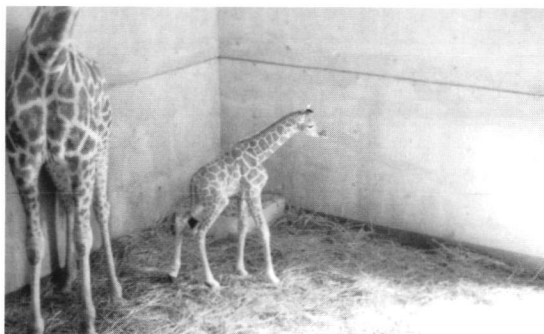


- 3 月 3 日 「春の ZOOクイズラリー」開催
- 3 月 4 日 キバシハイイログアン、産卵する
- 3 月 6 日 ワタボウシパンシェ、繁殖する (2 頭)
- 3 月 10 日 冬期、室内に収容していたアフリカハゲコウを放飼する
- 3 月 12 日 ホウカザリヅル 1 羽、天王寺動植物公園より受贈
- 3 月 15 日 トナカイの雌、右角落ちる
- 3 月 18 日 スローロリスの雌、死亡する
- 3 月 20 日 カリフォルニアアシカ、出産するが、仔は死亡する
- 3 月 23 日 エリマキキツネザル、繁殖する (1 頭)
- 3 月 24 日 子ども動物園のクサガメ、冬眠から覚める
- 3 月 27 日 チンチラ、繁殖する (2 頭)
- 3 月 28 日 ヤツガシラなどの鳥類、新着する
- 3 月 31 日 ケープペンギンの雌、死亡する
- 4 月 3 日 マガンの繁殖のため夜間点灯をはじめる

- 4 月 7 日 フンボルトペンギン、1 羽孵化する
- 4 月 8 日 グレビーシマウマ、雄 1 頭、横浜市立野毛山動物園へ搬出する
- 〃 ウシ 3 頭、幼令の個体と交換する



- 4 月 9 日 ムフロン、2 頭繁殖する
- 4 月 11 日 タンチョウ、雄 1 頭、東京都恩賜上野動物園よりブリーディンググローンで搬入する
- 〃 ラッパチョウ 3 羽、購入新着する
- 4 月 12 日 キバシハイイログアン、4 羽孵化する
- 4 月 14 日 ダチョウ、放飼場で産卵を始めるがうまく出ず介添する
- 4 月 16 日 ヒツジの毛刈りを始める
- 4 月 17 日 アカコンゴウインコ、1 羽孵化する
- 4 月 20 日 クロミマーモセットの仔、人工哺育を始める
- 4 月 26 日 ハワイガン 1 羽、豊橋動物園へ搬出する
- 4 月 27 日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催 (アクシスジカ)
- 4 月 30 日 鳥類にニューカッスル病のワクチン接種を始める
- 5 月 5 日 アクシスジカ、繁殖する (1 頭)
- 5 月 11 日 園内に野犬が入りフラミンゴ被害にあう
- 5 月 12 日 「愛鳥週間特別講演会」開催
- 5 月 14 日 マーモセット類 4 種 7 頭とエリマキキツネザル 4 頭、搬出する
- 5 月 17 日 ハイイログアン、孵化する (2 羽)
- 5 月 18 日 アオバヅクとハシボソミズナギドリ、保護される



- 5 月 19 日 アミメキリン、繁殖する (1 頭)
- 〃 「羊の毛刈りと紡毛教室」開催
- 5 月 23 日 ペンギン舎に冷房を入れる



羊の毛刈りと紡毛教室

- 5月25日 ケープペンギン、換羽終了する
 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催 (トキ類)
- 5月26日 アミメキリン、初めて全頭一緒にする
- 5月27日 バードホールに新着の30羽の鳥を放す
- 5月28日 アカリス、しきりに巢内に餌を運ぶ、繁殖の様
- 5月30日 アクシスジカ、繁殖する (1頭)
- 5月31日 ファンボルトペンギン、孵化する (2羽)
 カンムリバト、孵化する (1羽)
- 6月3日 モウコノウマに日本脳炎の予防注射を行う
 遊園地開設に伴い、近隣者を招待する



6月9日 「動物を計る会」開催



6月10日 「遊園地開園式典」举行

- ニホンザル、繁殖 (1頭)
- 6月12日 遊園地 (ドリームワールド) オープン
- 6月13日 4月7日生まれのファンボルトペンギン、泳ぎ始める
- 6月17日 ヤギ、ヒツジに腰麻痺予防注射を行う
- 6月21日 セーブルアンテロープ、繁殖 (雄1頭)
- 6月22日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催 (アジアゾウ)



セーブルアンテロープの親子

- 6月24日 ツクシガモ1羽、ベニバシガモ2羽、孵化する
- 6月26日 レッサーパンダ舎に冷房を入れる
 サル比較舎屋上にヨシズを張る
- 6月28日 セーブルアンテロープの仔、初めてパドックにだす
 オグロプレーリードッグ、1頭新着する
- 7月1日 レッサーパンダにジステンパーの予防注射を行う



- 7月1日 ダチョウ、初めて孵化する
 動物愛護標語募集 (~31日)
- 7月2日 ジェンツーペンギン、3羽搬出する
- 7月4日 モモイロペリカン、1羽死亡する
 グレビーシマウマ、1頭死亡する
- 7月7日 アカテタマリン、繁殖する (1頭)
- 7月12日 セスジクスクスの仔、育児嚢から初めて出る
 カリフォルニアアシカにフィラリアの予防注射をする
- 7月16日 ワタボウシパンシェ、1頭搬出する
- 7月17日 オランウータンの仔(ナナ)、親から離れていることが多くなる
- 7月21日 チリーフラミンゴ21羽、東京都多摩動物公園より搬入される
 遊園地にて「サマーカーニバル」開催
- 7月24日 「第7回サマースクール」開催 (~26日)
- 7月26日 エジプトリクガメ、27頭緊急保護で收容する
- 7月27日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催 (ヨーロッパバイソン)

飼育よもやま話 Animal Episode

彼女と彼とそして私の微妙な関係

Delicate relations between she, he and me

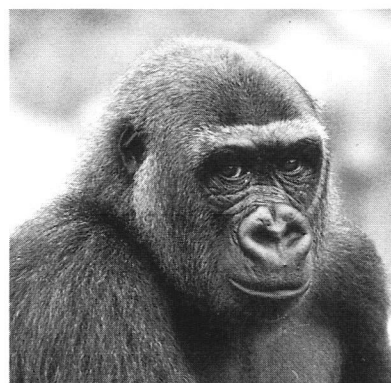
昨年3月29日、我が園に待望の雄と雌2頭のゴリラが来園しました。当時雄は4才、雌は6才、名前は一般公募で雄はモン太、雌はモモ子とつきました。その時私はチンパンジーとオランウータンを担当しており、彼らとは代番（担当者が休みの時に代わりに飼育すること）としてかわる事となったのです。モン太はあまえん坊でやんちゃ盛り、モモ子はちょっと気むずかしいお年頃。担当者M氏はベテランの飼育係で、すでに2人の子供がいる家庭人。私はまだまだ飼育係としても未熟な独身者。えっ、そんな人間の事はどうでもいいですって？いやいやそれがけっこう関係あるらしいのです。類人猿は飼育する人間によって、あきらかにランクを付けて見ます。ある程度個体差があり、モン太とは私もすぐに仲良くなれたのですが、モモ子はそれが顕著なゴリラでした。ほんとうだかうそだか、特に雌は独身者をバカにするそうです。

私が代番の時、エサを持ってモモ子の寝室に入ると、彼女はエサを持ってすぐ奥の方へ行ってしまう。きげんの悪い時などは、露骨にいやな顔をして「早く出ていって、といわんばかりに、私に体あたりしてくる時もありました。

モモ子はM氏が大好きでした。発情期には彼女はM氏をたいへん色っぽい？目をして見つめ、あまえるよ

うにのどをならします。同じゴリラのモン太には、そんな目をする事は決してありませんでした。まだまだ彼が雄として未熟なためでしょう。

そして一年がたち、M氏



M氏を見つめる色っぽい？目

はゴリラの担当を離れ、私が担当となったのです。最初の一ヶ月位は、モモ子は私に対して冷たい態度を変えませんでした。それでも毎日接しているうちに、少し心が通い合ってきたのでしょうか。今ではだいぶ仲良しになりました。でも、いまだに私の事を色っぽい目で見つめてくれるような事はありません。少しかなしい気持ちもありますが、本当はそれでいいのです。愛するM氏が彼女の許を去った今、彼女の恋心は、いずれ立派に成長するであろうモン太に向けられ、やがてかわいい赤ちゃんができる事、それが一番望ましい事なのです。まだまだ幼いモン太が大人になるまで、さしずめ私はモモ子の「みつぐクン」といったところでしょうか。（伊藤 泰志 Yasushi Itoh）

ニワトリの先祖「ヤケイ」

“Jungle Fowl” - the ancestor of chickens

家畜の原種ゾーンの一角に、ヤケイ舎があります。ヤケイには、セキショクヤケイ、ハイロヤケイ、セイロンヤケイ、アオエリヤケイの四種が知られており、このうちセキショクヤケイだけがニワトリの先祖だという一元説と四種共関係しているのだという四元説とがありますが、現在は一元説の方が有力視されています。私も一元説の方を支持しています。何故かと言えば、実際に飼育してみて、やはりセキショクヤケイ以外は、非常に飼育・繁殖が難しいのです。また臆病でもあり、清掃等でゲージ内に入りますと、バツつき、とてもニワトリの様に飼いが慣らすことは出来ない感じがします。それに鳴き声もセキショクヤケイは「コケコッコ！」と所謂ニワトリに近い感じで鳴きますが、それ以外は、全く鳴き声は異なります。さらにニワトリは殆ど一年中鳴きますが、ヤケイは発情期以外は全く鳴きません。その中でもセキショクヤケイは、一年

の中で比較的長期間に渡って鳴きますし、雌の方も他の三種に比べ産卵期間が長い様です。以上のことから遺伝的な根拠は何もないのですが、一元説を支持する所以です。

ウシ、ウマ、ブタ、ニワトリの様な身近な動物が、普通人の動物の常識となっている現在、実際当園に訪れるお客様の大半が、四種のヤケイを御覧になってニワトリの品種を展示しているものと錯覚されているのですが、一方動物園側から見れば、今現在どんなに頑張っても、動物園で繁殖出来る動物は、鳥では8,900種いる中で約10%です。残りの90%は動物園では種の保存が出来ないわけですから、現在の自然環境をこれ以上悪化させずに後世へ残していく必要があるのです。

21世紀に向けて、これからの動物園の在り方の世界的な方向として「種の保存」と「環境教育」を二本立ての柱として手がけて行かねばならないと言われていきます。そういう意味では、環境保護の問題を強く啓蒙活動していくことも動物園の新しい役割の一つと考えています。（小林 正典 Masanori Kobayashi）

健康管理センターから

From the Animal Health Center

くつしたをはいた野うさぎ

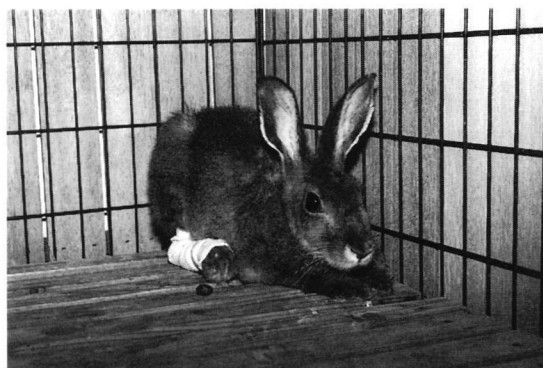
A hare wearing socks

「長ぐつをはいたネコ」というお話がありますが、今回登場するのは「くつしたをはいたノウサギ」です。

子ども動物園でハトのおとなりにいるノウサギの後ろ足が両方ともムクツとはれて痛そうなのに気がついたのは6月頃でした。ウサギは足の裏の小さな傷からばい菌が入って化膿したり、足の裏に穴があいてしまう病気にかかることがあります。このノウサギも足に膿がたまっているのです。

カイウサギならばムンズとつかまえて「痛くない！」と因果を含めながら(?)膿をしばらく出して中を洗って注射をして、という治療を一週間も続ければかなりよくなるのですが、ノウサギではそうはいきません。ノウサギはれっきとした野生動物で、人間がつかまえると暴れて背骨を折ってしまうこともあります。子ども動物園のノウサギは赤ちゃんの時に保護されて人工哺育で育ったのでわりと人慣れしていますが、それでもそうじのためにケージに入っただけで走り回ったりしてしまい、簡単にはつかまえられません。

まず餌に薬をかけて食べさせました。するとはれが少し減ってちょっと楽になったようでした。けれどもまた、だんだんはれてきたので麻酔をかけて治療しました。麻酔をかけるには、巣箱に入っている時に入り口にふたをして箱ごとつかまえて、そのまま麻酔ガスの中に入れます。この治療の後は、しばらくだいぶ良かったのですが、8月になって又はれてきたのでつい入院となりました。再び麻酔をかけて膿を出してき



れいにした後、ガーゼを当てて、「くつしたをはいたノウサギ」となったわけです。

「くつした」は包帯のかわりに良く使う手ですが、サルやタヌキだと手や歯でとってしまいます。ウサギでも気にするタイプだと歯でかじって穴をあけ、中のガーゼなどを引っ張り出してしまいます。このノウサギはどうするか心配だったのですが、どうやらあまり気にしていないようです。入院ケージの床は「くつした」が汚れないように、すきまがウサギのフンがちょうど落ちる大きさに作ってある特製の「ウサギ用すのこ」にしました。

人にさわられるのはいやなノウサギですが、ケージぐらしは赤ちゃんの時からですから慣れたものです。入院したその日から餌もしっかり食べて養生しています。何回か「くつした」の交換をすれば(そのたびに麻酔することになるのですが)きっと良くなるでしょう。復帰する日をお楽しみに。

(米田 久美子 Kumiko Yoneda)

平成3年度後期行事予定表

行 事 名	時 期	内 容
特別展「動物の大疑問」	10月1日～	動物についてのおもしろい疑問をやさしく説明します。
親と子の自然と遊ぶ教室	10月13日	草木や木の実で遊びながら、自然と親しむ楽しい教室です。
秋のZOOクイズラリー	11月3日	園内の動物にちなんだクイズを行ないます。
動物公園写真コンクール作品展	11月1日～11月30日	入選作品の展示を行ないます。記念講演会及び表彰式(11月10日)
動物公園のクリスマス	12月8日	クリスマスにちなんで、ツリーのかざりつけやカードを作ります。
新春特別展示「サル」	1月4日～	千支にちなんだ動物をパネルで紹介します。
新春特別行事	1月5日	新春にちなみ、もちつき大会を行ないます。
バードウォッチング	1月12日	園内の野鳥の観察を行ないます。
ゆかいな森の音楽会	2月2日	動物にちなんだ音楽を演奏します。
春のZOOクイズラリー	3月1日	園内の動物にちなんだクイズを行ないます。
動物公園ワンポイントウォッチング	毎月第4土曜日に実施	動物公園の最新の話題と動物のワンポイントガイドを行ないます。



ワオキツネザル